

セミナー通信

V o l . 2 1 6

西村セミナールーム

主宰 西村 恵子

おしゃべりな提出物

新年度が始まって、早くも一ヶ月近くがすぎました。新中 1 の塾生諸君は、そろそろ新しい生活に慣れてきたでしょうか。通学に部活に塾にと、時間的にも体力的にも大変ですが、うまくリズムを作っていきたいですね。

さて、新学期ということで、中学生に必要な心がまえをまずは 1 点挙げておきたいと思います。毎年新中 1 の説明会ではお話をさせていただいたり、何度かセミナー通信でも取り上げている内容ですが、大切なことですので特にこの時期、全塾生にまた読んでもらえたらと思います。

それは提出物です。宿題であるものが多いでしょうが、期日までに必ず出すことが中学生の常識となっているでしょう。さてここで問題なのは、この「提出物」は実におしゃべりであるということなのです。ものが「しゃべる」などというと不思議に思われるかもしれませんが、本当によくしゃべってくれるのです。もちろん提出したあなたのことをです。

文字の書き方、消しゴムでの訂正の仕方、うっかりとぼした問題、赤ペンの○のつけかた、教えたことのない解き方、こぼしたジュースのあとや見開きにはさまったお菓子のくずなど。あなたがどんな思いで、何をしながらそのプリントをやっていたのか、提出物はどんどんおしゃべりを始めます。

時には感心するほどまじめにやってある提出物にあうこともあれば、添削する気も失せるものにあうこともあります。とにかく“やっつけた”だけ、人に見ていただくという意識がなく、出しさえすればいいとでも思っているのかと腹立たしくなるほどの提出物です。そこまでではなくても、多くの人は提出物はただ間違えずに出すことのみが重要なこととと思っているようです。ですが、ほとんどの提出物が授業で教えた内容の定着をはかるものなので、本人がどれだけ理解したかが一番重要であり、こちらもそれを知りたいのです。

集中せずに取り組んだり、急いですませただけのプリントでは実力の定着はあまり期待できませんし、また、答えだけ誰かに教えてもらったような「きれいな」プリントでは授業中や月例で恥をかくだけに終わります。

少人数の塾だけに、こうした提出物の「声」は否が応でも聞こえてきますが、学校の先生であっても、プロの先生なら何十冊チェックしようともこの声には敏感です。「期限までに出したからいいだろう」と思っているあなた、それこそがいけないのです。ただ「こなすだけ」の提出物から課題の意味をつかんで誠意を持って取り組む提出物にしてほしいものです。